
不器用な。

RYUN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
不器用な。

【Nコード】
N4654J

【作者名】
RYUN

【あらすじ】
女には不自由しない。いつも女からボクを求めてくる。それでいい。女がボクに恋をしたなら、溺れればいい、それだけだ。愛なんてなくていい。ただ、ボクに恋をして？

——満たされない。カラダもココロも。

ボクは女には不自由してないんだ。

ホラ、今だって。

ボクの隣にはぐっすり眠った女がいるんだ。

きつと、ボクは昨日この女と恋をしたんだ。だから、カラダを重ねたんだ。

でも、ボクは次を求めている。

求めてたって、ボクから来なくても相手からくるんだ。

今も、ボクの枕元にある携帯が鳴っている。

——ねえ、昨日は何で会ってくれなかったの？昨日、誰と何処にいたの？

なんて女の問いかけに、ボクは苦笑。”保護者かよ”って。

けど、そんなことは口には出さない。ただ曖昧に、優しく甘い言葉を囁いて。最終的に、”ボクにはキミだけだよ？”って。そしたら、女は簡単にボクの言葉を信じるんだ。

——これでいい。”愛してる”なんて言葉はいらない。

”愛してるって言って？”なんて女の言葉も誤魔化して流して、ただ”スキだよ”って。そう言えればいいだけ。もつと、ボクに溺れればいい。ボクしか見えなくなつて、ボクだけに乱れて…。

なんて、ボクは自分勝手な男。
ボクが可愛がってあげるのは、一人じゃないんだ。

一途じゃないボクを許して。

いつも女たちは問う。”どうして愛してるって言ってくれないの？”
”って。面倒くさい。何で答えてやらなきゃいけないんだよ。
そんな問いかけにボクは、”言わなくても分かってるだろ？”って。

こういう時、ちゃんと顔を作れてるかな。ちゃんと笑ってる？

ボクが”愛する”ということを知らないって、バレてない？

でも、ボクにはこれで丁度いい。愛なんて知らなくても…愛なんて、
重そうなものよりも…

恋のほうが、楽じゃん？

＊

ある日。ボクの双子の姉の部屋に用事があって、ノックをした。
けど、応答はない。

”入るよ？”と一言、そのまま部屋に入った。

姉の部屋には写真が数枚壁に貼っていた。
ボクとの小さい頃の写真や、友達と写っている写真。

ふと、ある写真が目についた。

姉が、ボクの知らない男と写っている。

そのとき、ボクの中でなんともいえない感情が渦を巻いた。

ボクが、一番姉に一番近い存在だと思っていたのに。

安心していたのに。

ベッドで眠っている姉の姿を見る。布団も被らず寝転んでいるところから、帰ってきてからすぐベッドに寝転んだと思われる。

そして、目元には泣いた跡。

あの男なのか？なんて思うと、頭がおかしくなりそうだった。

丁度目を覚ました姉は、部屋にいるボクをみて驚いている様子。そんな姉にお構いなしに、ボクは姉に覆い被さる。

固まっている姉の顔の横に顔をもっていく。

そして、耳元で小さく叫んだ。

”愛してる…。”

(後書き)

ある歌を聴いて。

コレ、分かる方いらっしゃったら凄
い。
RYUNさんがお祝いします↑

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4654j/>

不器用な。

2010年10月13日15時47分発行